

復活信仰の回復(マルコ 16:14-20)

信者が落胆する理由はさまざまです。しかし、信者が落胆する本当の理由は、信仰に問題があるからです。特に、イエス様の復活を信じる、復活の信仰が欠けているので、実はあらゆることが問題になってしまいます。だから、イエス様は弟子たちの前に現れて、彼らのそのような不信仰を責められました。それは単に責められただけのことではなくて、弟子たちがこの信仰を回復するためのイエス様の働きなのです。もし皆さんが信仰に対して責められるような場面があるとすれば、落ち込むことなく「あっ、信仰を回復しなさい」という神様の配慮であり、愛のメッセージなんだ」とそのように受け止めていただきたいと思います。その結果、弟子たちは復活のイエス様を信じる信仰を回復することになりました。これがイエス様が弟子たちに願っておられることだし、神様が今の私たちに願っておられることです。この信仰の回復のために私たちが考えたときには、なんで、どうしてというようなことが許されるということも覚えましょう。それで落胆していた弟子たちが、復活のイエス様を信じる信仰を回復した結果、どのように変わったのでしょうか。どうなったのでしょうか。そのことを今日の聖書の箇所を通して確認して行きたいと思います。それで私たちの心の中でもなるほど、今まで私はあの人のせいとかさまざまのことを考えていましたが、実は信仰の問題だったのだね。信仰の回復をしなくちゃというふうに思うだけで神のわざが現れます。

1. 復活信仰の回復により人生のどんでん返しが始まる。

イエス様の復活を信じる信仰を回復すると、まず第一に、その復活の信仰回復によってその人の人生のどんでん返しが始まります。人生が予想だにしない、ガラリと変わるようになります。

1) イエスはキリストに釘を刺す。

まず、イエス様の復活を信じる信仰を回復したということは、イエスはキリストをということに釘を刺すことなのです。なるほどイエス様は創世記3:15で預言され約束されていた、蛇の頭を踏み砕いて私たちを救い出す、約束の女の子孫、その方に間違いのないんだというふうに信じる人の心の板に釘を刺すこととなります。そこから人生は変わります。そうならない限りは、本当の意味での変化はありません。何か変わったとしても、それは変わったことではありません。しかし、イエス様の復活を信じる信仰によって、なるほどイエス様はその女の子孫、その方だったのだね。つまりイエス様は、サタン悪魔の頭を踏み砕いて勝利なさった万軍の王に間違いのないんだと。イエス様は人々を捕らえている死の力と権威を打ち破った勝利者に間違いのないという信仰が刻印されることとなります。イエス様の復活を信じる信仰によって、イエス様が十字架の上ですべてを完了したと宣言されたその言葉が、その通りなんだ、本当にすべてを完了されたんだと信じることとなります。そして、そのイエス様がすべてを完了なさって、万軍の主となられたイエス様がいま生きて働いてらっしゃるんだと。それで終わりではないのでしょうか。何が足りないのでしょうか。何かが足りないと思ってしまうのは、この信仰が欠けているからです。何かが本当に足りないからではありません。

2) 自分もともに復活に預かったことを確信する。

イエス様の復活を信じる信仰回復によって、結果、そのイエス様を信じる自分自身もイエス様とともに復活の祝福に預かったということを確認し、また確信することとなります。エペソ2:6にはこう書いてあります。「キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました」ことがわかるようになります。いまこの三郷レムナント教会の礼拝堂で礼拝を捧げているのに、ともによみがえられ、ともに天の御座に座っているということを信じるができるようになります。それがわかってくるようになります。だから当然、ローマ8:2のみことばが自分自身のものなのです。私は死と罪の原理から、滅びの運命からは完全に解放されているし、古いものは過ぎ去って、完全に新しく作り変えられているんだということがわかるようになります。いつでしょうか。イエス様の復活を信じる信仰を回復したときにそうなります。だから自分は十字架とともに死んで、私の内側にキリストがいま生きていらっしゃるということがわかるようになり、当然、自分自身は聖霊が宿っている三位一体の神様がともにおられる神の神殿である尊い存在だということに気づくようになります。いま人間的な条件、環境、状況がどうであれ、私は

神の神殿なんだ。だから天にある霊的すべての祝福をいただいているし、それが私のものに間違いない、私に乏しいことはありません。だから、こういうふうに言われているんだ。私は地上にいる間にキリストをかしらにして、キリストのからだなる教会と言われるものになる。キリストの光を放つことができる存在。だから、あなたがたは地上にいる間に王である祭司と言われるものになるんだ。私はそういう存在です。つまり、自分がわかっている自分、親がどうのこうの言っている自分ではなくて、ほかの人と比べてどうのこうのと考える自分ではなくて、神様が造られた自分を発見することになります。なぜでしょうか。イエス様が復活なさったので。イエス様の復活によってすべてががらりとどんでん返しなのです。

3) 落胆の人生から神のみこころを求める人生に。

なので当然ながら弟子たちのように、落胆して無気力になって途方に暮れていた弟子たち、そのような人生、つまり条件、環境、状況に左右されていた人生、その条件、状況によって不平不満に走り、心配、思い煩いに囚われて、嫉妬と妬みになどに走るしかなかったその人生を終わりにして、そういう人だったのに、その人は神の願いはなんなのか、それを求めるようになるし、神の願いを全うしていく、成し遂げるそういう人生を歩くようになります。どんでん返しなのです。敗者だと思っていたのに、ダメな人間だと思っていたのに、それがガラリと変わって光輝く人生に変わるようになります。いつでしょうか。なぜでしょうか。イエス様の復活によって。私たちが信じなくてもイエス様は復活なさいました。悪魔の頭を踏み砕いて、すべての問題を終わらせて、死の力を打ち破って、地獄の勢力を打ち破ってよみがえられました。そのイエス様の復活を本当に心から信じる信仰を回復するようになったときに人生は変わります。変わったということが確認できます。条件、状況によって評価しないでどんでん返しが始まります。なんと素晴らしい祝福なのでしょう。皆さんが自分の価値を正しく理解していないと、人生を大事に生きることはできません。どうでもいいよ。成功するために一生懸命、勉強するわけではありません。しかし、自分自身がキリストの光を放つ尊い存在なので、それが分かっているから、自分を大事にして行く中で勉強も大事に最善を尽くすようになるわけです。言葉も注意します。自己中心にならないで相手のことを配慮します。道徳的な倫理ではなくて、自分が他の人と違うイエス様の復活によってガラリと変えられている尊い神の神殿であるということが本当にわかっているれば。柳先生もおっしゃいました。ゴミ拾いをしているおばあさんは、交通信号などを無視するのです。このように死んでも、あのように死んでも、結局同じだから。自分の価値が全くないということがわかっているから。人生をそのように生きていきます。考えることもすべてわがままに自分勝手に考えてしまいます。それは自分を虐待することなのです。クリスチャンは違います。外見がどうであれ、お金があるかないか、ハンサムなのがかっこよいかブスなのか。そういうこととは一切関係なく、私が信じている私の内側にいらっしゃるイエス様が復活なさった万軍の主であるがゆえに、私も王であり祭司なんだ。だから自分の人生、自分のすべてのことを慎重に大事に価値あるものとして扱うようになるということが、クリスチャンの生き方というものなのです。これを道徳的に律法的に正しいからこうやりなさい、こうしなくちゃということではありません。それは逆に疲れて重荷を負うことになります。生き生きとしたいのちがあふれるそのような尊い存在であることをイエス様の復活を通して確認して、自分にそれが刻印されるようにしていきましょう。

2. 復活信仰の回復により世を生かすミッションの人生を歩ける。

そして、その結果、二番目です。イエス様の復活を信じるその復活の信仰を回復することによって、この世を生かすミッションの人生を歩けるようになります。

イエス様が弟子たちの前に現れて、信仰のないことを責められ、彼らの信仰を回復させました。それから、今まで落胆して倒れていた彼らに向かって、あなたがたはそういう存在ではないんだよということでおっしゃったのが今日の聖書の箇所なのです。なんとおっしゃったのでしょうか。

1) 福音を宣べ伝える人生

全世界に出て行って福音を宣べ伝えなさい。悪霊を追い出して。それをミッションの人生と言います。何を食べるか、何を飲むか、どうすれば成功できるか、その次元の人生ではなくて、神の願いを全うするためのミッションの人生。この暗闇に囚われている世、人々を生かすためのミッションの人生。15 節でそのようにおっしゃいました。だからミッションの人生というのはどういう人生なのかと言いますと、福音を宣べ伝

える人生なのです。

2) 誰も真似出来ないことを

これを誰ができるのでしょうか。誰にこれが許されているのでしょうか。イエス様の復活を信じるクリスチャンの私たちの他にはありません。福音を宣べ伝える人生というのは、単にペラペラとお話をする、そういう意味ではありません。イエス様がおっしゃった通りに誰も真似できないことを行ないながら、誰も真似できない尊い人生を歩いていくその人生をミッションの人生と言います。皆さんに何回も申し上げましたように、特に過去を振り返って、その過去が心の傷やトラウマとして残っていると、それはサタンのやぐらなのです。それは全部ミッションのためのものであり、それがミッションに変わらないといけません。それで傷が傷に残らないで、暗いものが暗いままでなくて光輝くようになります。虐待されたことが光り輝くようになります。クリスチャンの他には不可能なのです。失敗したことが、誰かを失った悲しみが、輝くものになります。それをミッションと言います。誰も真似できないことを行ないながら、勝利の人生を歩むようになります。いつでしょうか。イエス様の復活を信じる信仰を回復したその時なのです。16 節にこう書いてあります。「信じてバプテスマを受ける者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます」。神様による救いなのですが、イエス様の復活を信じる信者を通してそれをなさると。

3) 死んでいるたましいを生かすいのちの運動

新しい創造の働き、霊的な地殻変動、神の国が建てられ、のろいの流れを断ち、誰にも出来ない癒しの働き、つまり、イエス様の復活を信じる信者の人生は、死んでいるたましいを生かすいのちの運動そのものなのです。そういう人生を送ることになります。あまり今まで経験がない、やっても結局うまくいかなかったさまざまな経験を根拠にして諦めることがないようにしましょう。そこには時刻表があるし、また私たちが正しく整備されていなかったということがあるだけなのです。イエス様の復活を信じる信仰回復すれば、必ず死んでいるたましいを生かすいのちの運動が行われます。私は皆さんが、皆さんがいる現場においていのちの運動が行われることを祈っています。それは願いではなくて約束です。必ず誰でもイエス様の復活を信じれば、この言葉をそのまま何も計算しないでアーメンと受け入れることを信仰と言います。神のみことばは自分の理解と計算に合うかどうかを考えるものではありません。神様がおっしゃったことは必ずその通りになるし、私の理解や計算にあわなくてもその通りなので、それらを撤廃してアーメンと受け入れること、それを信仰と言います。そうすると、それが祈りに変わり、その通りになります。私は神の一方的な不可抗力的な恵みによって信者になりました。にもかかわらず、私にあるいちばんの不信のやぐらが何かというと、自分の計算と理解が及ばないとなかなかアーメンにならないのです。浅く勉強した結果なのです。天才でもないのに天才みたいな勘違いをして勉強していたその頭の構図、論理によってそういうやぐらが出来上がっていました。神のみことばは理解ではありません。処女が身ごもって子どもを生むということなどをどこをどのように理解できますか。アーメンなのです。マリアのようにアーメンです。百才になったアブラハムに子どもが生まれると。笑いました。到底自分の計算では、自分の理解では受け入れ難いし、不可能なのです。だから神のみことばなのです。盲従という言葉とは違います。アーメン。イエス様がおっしゃいました。イエス様の復活を信じる弟子たちに、今まで落胆して倒れていた弱々しい人間なのに、あなたがたを通して死んでるたましいが生かされるよと。福音を宣べ伝えると。職業と人間的なレベルと社会的な階級など関係ありませんとおっしゃいましたので、その通りにアーメンすればいいのです。その通りになることを祈ればいいのです。つまり死んでいるたましいが生かされるということは、新しい創造の働きが行われるということです。誰を通してでしょうか。イエス様の復活を信じる信仰を回復すればそうなります。大学教授ができるのでしょうか。お医者さんにこれが可能なのでしょうか。だから信者、教会がとてとても大切なのです。17 節にはこう書いてあります。「信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し」。これからミッションの人生とはどういう人生なのかと言うと、皆さんの動き、皆さんが行くことによって福音を宣べ伝えることによって霊的な地殻変動が起こるのです。悪霊が追い出されます。すごい感動的な音楽でも悪霊が追い出されることなどありません。自分の身を燃やして人のために犠牲になったとしても悪霊が追い出されることなどありません。親は子どものためにすべてを犠牲にすることができる存在です。その親の気持ちは尊いものです。しかし、その親の犠牲でさえ悪霊を追い出すこととは無縁なのです。福音を宣べ伝えるときに。皆さんだけなのです。心を新たにして、決断を新たにしましょう。何を食べるか飲むか、どっちが正しいかどうか、あいつらが... 等々に縛られることなく、

全部取っ払ってこれに集中しましょう。それで新しい言葉を語り、悪霊が追い出され、福音が宣べ伝えられる、それが神の国が臨まれることなのです。私たちの人生はミッションの人生であり、福音を宣べ伝えるだけなのに神の国が建てられるそのような人生を歩むようになります。イエス様の復活を信じる信仰を回復することさえあれば、18節「蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされます」。つまり、わかりやすく申し上げますと、私たちのミッションの人生を通して福音が宣べ伝えられることで、のろいの流れが絶たれることとなります。止められないのろいの流れというものがあります。それが止められ絶たれることとなります。このような人生がどこにあるのでしょうか。なのにクリスチャンの方々が、このような人生とはかけ離れて、落胆したため息をして、ブツブツつぶやくばかりでいます。それは理解はできますが望ましい姿ではありません。誰かのせい、何かのせい、これがあって... という言い訳が必ずあると思いますが、今日限りにしましょう。それは信仰の問題です。一般の人がこれだあれだというのは、その世界の中で当てはまるかもしれませんがクリスチャンには当てはまりません。信仰の問題です。なぜなら私たちはイエス様を信じる者ですから。病人に手を置けば病人が癒されます。誰にもできない癒しの働きがなされることとなります。福音を伝えることで。福音を伝えるというのは簡単な話ではありません。誰も真似できないミッションの人生を歩くようになります。そして、イエス様は弟子たちに最初から言いました。全世界に出て行きと。多くのクリスチャンが伝道だけでいいのか。人を配慮すべきさまざまなことがあるのにと。それを愛として取り上げて伝道ばかりすることは愛がないかのように、そういうニュアンスで教会のカラーを変えようとする動きが世界中にあります。

4) すべての差別の壁を越えて真の人類愛の道へ

けれども、福音宣教こそすべての差別の壁を越えて。の人類愛です。その道を歩むのがミッションの人生です。福音宣教のほかに本当の意味で人類の愛というものはありません。騙されないように。私たちはわかっています。人々には理解してもらえないでしょうけれども。だから私たちは集まって神の恵みを求めるのです。今朝、柳先生が言いました。全国のヤクザが集まる時に何が起きるのか。大統領、サミットが集まる時、何が起きるのか。そういうことを考えて礼拝を考えないといけない。このようないのちある神の民が一斉に集まって礼拝をする時にどういうことが起きるか考えて礼拝に集まりましょうと。天の軍勢が動員され、地殻変動が起きることになります。礼拝はそういうものです。私も今朝聞いてなるほどと。それは考えていなかったのですが。ヤクザの親分がみんな集まる時に何が起きるのでしょうか。ましてや神の子ども、神殿である人々が集まる時に何が起きるのでしょうかを想像しながら。それが礼拝です。礼拝はすべてなのです。福音宣教こそ人類愛です。全世界にいまだに肌色の壁、人種の壁、あらゆる格差があり、それら全部を越えられたものは地上に存在しません。福音宣教だけです。すべての壁を越えて人類を愛する方法は福音宣教の他にありません。その道を私たちは歩いていけるようになります。いつでしょうか。私たちの能力とは関係ありません。自分はそんな...と思うでしょうけれども。来週またそういう話をします。そういうことは全部不信仰です。いま倒れている弟子たちに現れて、復活を信仰さえ回復できれば、あなたがたは条件、状況、環境と関係なく、このようなミッションの人生を歩くようになるんだと。何とすばらしいでしょうか。皆さん、ミッションの人生を歩いているのでしょうか。あるいは生きるために、食べるために、精一杯の人生を歩いているのでしょうか。あるいはさまざまな葛藤などに囚われてぎくしゃくしている人生を歩いているのでしょうか。極端に申し上げますと、それはどうでもいいですよにならないといけません。それくらいに。だからこそ、私たちは御座の祝福を見上げるしかありません。イエス様が最後に書かれています。よみがえられた御座にいらっしゃる勝利のイエス・キリストがともに働いておられます。しるしをもって。その力によってミッションの人生を全うすることになるので、言い訳などありません。出来る出来ないもありません。信じて祈れば良いのです。

なのでイエス様の復活の前に立って、「イエスはキリスト、私は神の子、幸い。すべての問題は終わった。私は伝道者」。この信仰告白を心の板に釘が刺さるまで繰り返し、繰り返し告白していきましょう。信じなくてもこれは事実です。なぜこう言えるのでしょうか。イエス様が復活なさったからです。具体的には、私を通して、まず私と関係している人々に福音が伝えられるように祈りましょう。具体的に。最初から諦めて祈りを諦めることなく祈り始めましょう。奈さんはそのミッションの人生なのです。祈るとどうなりますか。宣べ伝えられる門が開かれると、復活のイエス様がともに働いて、そういうことを体験するようになります。だから祈りましょう。まず関係している人々のために。

それから、これは少し人為的な方法ではありますが、週一日は伝道の日と自分なりに定めましょう。具体的にどういうふうに伝道するかではなくて、とにかくこの日は伝道に集中するんだと。集中することです。その心、思いを主がご覧になっていらっしゃると思うのです。なぜなのでしょう。私たちがこのようなミッションの人生なので、私を通してこのミッションが全うされるように神様が働いていらっしゃる事が間違いなければ、そういう意味合いを持って、その信仰をもって伝道の日をまず定めましょう。もちろん毎日が伝道の日なのですが、その気持ちを忘れないように。そのうち神様がひとつひとつ解いてくださると思います。それが次世代のレムナントにおあかしできるようになればレムナントは生かされます。それなしにこれが正しいよ、あれが正しいよというのは、ほぼ律法に近いものにならざるを得ないです。ただアーメンと受け入れて祈りましょう。

そうすると神様の奇跡の中を歩く奇跡の人生であることを信じて、私たちはミッションの人生なので神のしるしの中を歩く奇跡の人生なのです。それを信じて、それを体験していきましょう。どうすればいいのでしょうか。福音宣教にフォーカスを合わせればいいのです。来週、また再来週に2部礼拝で申し上げるつもりですが、受け入れなくても反対されても一切構わないように。ただ必ず永遠のいのちに定められているたましい、またその地域を担うことができる弟子が必ずいるので、その信仰さえ逃さなければいいのです。それが私たちのスタンスなのです。イエス様は十字架の上ですべてを完了したと宣言して、3日目に死の力を打ち破って復活なさいました。天の御座に昇られて、神の右の座に座って歴史を今も動かして、福音宣教をメインテーマにして歴史を動かしていらっしゃる方なのです。そのイエス様を私たちは信じています。レムナントが小さい時から、だから私の夢は違うよと。全世界に王の前でこのイエス様をおあかしするんだと。日本の至る所に福音のやぐらを立てるんだ。これは野望ではありません。小さい時から皆さんがそのために召されて、神様が働いて用いられるわけですから。何をすればいいのでしょうか。信じればいいのです。アーメンと。何も疑わないで、計算しないで信じればいいのです。信じるときに神様が私に語りかける神の御声が初めて聞こえてくるようになります。勝利しましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちは自分の限界、世のさまざまな状況にひざまずいて倒れて落胆して、自分の限界に閉じ込められることが多くあります。どうかそのすべてが信仰に問題があるということを認めて、イエス様の復活を信じる信仰を回復し、ミッションの人生、誰にも真似できない尊い人生を歩けるようにひとりひとりを祝福してください。どうか私たちの内側にイエス様の復活を信じる信仰を回復させてください。イエスはキリスト。私は神の子。幸い。すべての問題は終わった。私は伝道者と、これが心の板に刻まれるように聖霊様がみことばをもって働いてください。特にレムナントの心に刻印されるように祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン。